



～ 授業の見取りと探究的な学び～

☆ 8月PT～教員の学びあい～

福井大学教職大学院教授 木村 優 先生をお招きして

8月23日(金)、福井大学教職大学院教授の木村優先生をお招きし、「授業の見取り」と「教科における探究的な学び」について理論と実践の架橋を図るとともに、教員同士がグループになり対話し、各自の考えを共有していききました。

今回の取り組みは、2学期に本校で行われる多くの公開授業がより有意義なものになることを目指して行ったものです。

木村先生は、「授業研究」が「生徒の学力の向上」にはならず、「授業研究」→「教師のまとまり」→「教師の学びと育ち」→「生徒の学びと育ち」という一連の流れ、特にミッションの共有といった「教師のまとまり」の中でこそ授業研究が「生徒のより良い学びと育ち」に繋がっていくことを強調されていました。

☆ 授業の見取りってどうすればよい？ ☆

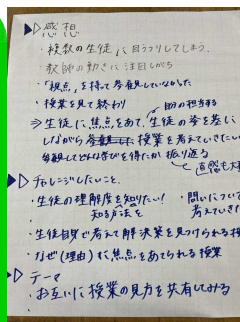
生徒たちの学ぶ姿＝事実＝根拠

⑥⑥ 私のフレームを捨て生徒のフレーム視点で

▽ 授業の見取りのポイント▽

まずは自分の感性で「この班だ！」と思った班に集中し、「生徒の学びのストーリーを見取る」ことで、「生徒の思考の深まりがどのように表れているか」をみていくことが重要であることを学びました。

その際、ノートを一冊持参し、具体的な記述（時間・生徒の発言・表情など）を記録することで、エビデンスとして授業者に見取りを返していくことで、授業者に納得してもらうことが大切であるというアドバイスを頂きました。



24名の先生の先生方の参加がありました！



見取りの練習が必要ですね

☆ 教科における探究的な学びとは？ ☆ 主題—探究—表現が基本型

11月1日に予定している公開授業では「教科における探究的な学びの設計」を仮テーマとしています。木村先生からは「主題—探究—表現」が探究学習の基本形という考えを頂きましたが、9月・10月のPTを通して、各教科や先生方で「教科における探究とは」という点について言語化していくことが重要であることが確認されました。生徒の思考を深めることできる授業展開を生徒ともに創り上げていくことができればと考えています。